

事業実施報告書

小学生わくわく里山キャンプ
2014夏休み・ふるさとステイ！

2014年9月吉日

事業実施報告書

認定NPO 法人地球市民の会
理事長 山下 雄司

1. 団体名

主催：認定NPO 法人 地球市民の会

後援：佐賀県、佐賀市、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、福岡市教育委員会

協力：株式会社 増屋 様 ヤマダ電機テックランド福岡賀茂本店 様

2. 事業名称

小学生わくわく里山キャンプ 2014夏休み・ふるさとステイ！

3. 事業実施経過

4月 事業実施地にて事業説明、日程調整、協力依頼

事業計画打ち合わせ

5月 事業実施地代表者とのプログラム打ち合わせ

プログラム作成、参加者募集チラシ作成

日程の調整

佐賀県・佐賀市・佐賀県教育委員会・佐賀市教育委員会・福岡市教育委員会への後援依頼

6月 佐賀市内全小学校へのチラシ配布

福岡市内（早良区・城南区）小学校へのチラシ配布

各種手配・調整（バス借り上げ、食事手配、講師依頼と手配等）

学生サポーター募集

7月 事業運営スタッフやサポーター事前打ち合わせ

参加者確定

参加者の各家庭への通知書発送と手続き（保険、健康調査票管理、参加費手続き等）

サポーター用パンフレット作成

事前準備

4. 実施内容

(1) 目的

当法人は2009年より佐賀北部の山間部において地元の方々と協働で地域づくりを行な

ってきた。その中で住民との話し合いを通してもっと多くの方に来てもらいたいという要望があり、小学生を対象としたキャンプ事業立案に至り、今回で3回目の実施となる。

この事業は自然を通し、地元の方々と触れ合い、学びのある青少年の健全育成を目的としている。

町（都市）部に生活する子どもたちが、日本の自然を支え、日本人の「こころ」の原風景である中山間地の里山の魅力を感じ、その意味を学ぶ。

見知らぬ地で地元の人との交流を通すことで世代を超えた人への関心を高め、今後も継続的に里山を訪れたり、地元の人に会いに行くなどの絆づくりも期待できる。

（2） 概要

今回、この事業を実施するにあたり、小学校全学年を対象にし、佐賀市内と福岡市（早良区・城南区）から募集をかけたところ、総数141名の申込があった。そして7月25日（金）～7月28日（月）までの期間を佐賀市三瀬中鶴地区で実施し、8月1日（金）～8月4日（月）までの期間を佐賀市富士町関屋地区で実施した。期間中は佐賀市役所または早良区ヤマダ電機テックランド福岡賀茂本店第3駐車場を集合・解散場所とし、毎日送迎の車を手配した。

子供たちの滞在日は一泊二日から二泊三日までとし、期間中どの日程からでも参加可能とした。プログラムはAコース（里山自然体験どっぷりプラン）、Bコース（里山の暮らしを楽しむプラン）の2コースを準備し、日替わりでA・Bコースを展開し、両コース共に事業実施地である中鶴・関屋集落ならではの資源を生かした自然体験活動プログラムを実施した。

事業運営のサポーターとして、高校生以上の男女の募集を募った。

（3） 日程

①三瀬中鶴プラン：7月25日（金）～7月28日（月）（4日間）

②富士町関屋プラン8月1日（金）～8月4日（月）（4日間）

5. 事業実施地と活動内容

（1） 三瀬中鶴地区

施設は中鶴公民館で、参加者児童数は二泊三日の参加者を含めた延べ人数で72名、運営スタッフは毎日8～11名で実施した。中鶴自治会の地域の方々のご協力があり、食事の準備や安全管理面でのサポートを頂いた。

（2） 富士町関屋地区

施設は関屋公民館で、参加者児童数は二泊三日の参加者を含めた延べ人数で69名、運営スタッフは毎日8～13名で実施した。関屋自治会と地域の方々のご協力があり、安全管理や「命の授業」で鶏の捌きの実施などのサポートを頂いた。

活動時は4～6名程度の班を複数つくり、各班にサポーターが1名ないし2名付くようにした。また、班長・保険係・生活係・食事係の役を設け、子供達の責任感の育成と自発的な行動を図った。

① Aコース（里山自然体験どっぷりプラン）について

自然体験をメインとし、魚釣りや昆虫採集、懐中電灯なしの暗闇探検を行った。魚釣りは初体験の児童も多く、エサ探しから始まり、生きたミミズを釣り針に通す作業は嫌々ながらも頑張っていた。その分、魚が釣れた時の喜びは大きかったようで、最終日に書かせた感想文でも魚釣りを題材にする子が多く見られた。

暗闇探検の目的は、普段、街灯に囲まれた生活をしている子ども達に、本当の夜の暗闇について、また暗いからこそ感じる自然の様々な風景や星空について、体感してもらいたいと思い企画した。街灯のない暗闇の中を、懐中電灯を付けずに散策することに、当初は緊張していた子ども達であった。だが次第に暗闇に慣れてくると、ホタルや川の音など、聞こえてくる自然界の様々な表情や一面の星空に大変喜び、楽しそうに活動していた。子ども達は最初こそ暗闇を怖がっていたが、一緒に花火を行い、蛍を見つけたことによって暗闇の良さを感じ、子ども達同士の親睦も深まったようだった。

② Bコース（里山の暮らしを楽しむプラン）について

里山の暮らしを地元の方と一緒に作業を行い、楽しめるプログラムを組んでおり、蒸しパン作り（三瀬）では収穫の体験からは出来なかったものの調理・準備・片付けを人の方たちとお話をしながら楽しく作業を行えた。自分たちで作った蒸しパンをできたてで食べることができ、大変喜んでいた。凧作りやしめ縄作り（富士）も地元の方の指導の元、作業ができた。



蒸しパン作りホックホクにできました



しめ縄作りプロ職人誕生！？

尚、両コースに共通して以下の活動を行った。

・清流川遊び大会

キャンプ初日、昼食をとった後に昼過ぎより実施した。三瀬中鶴地区は中鶴公民館の裏手に流れる川で遊び、流れは緩やかだが、川幅は5～6mあり、深みがあるところにはスタッフを配置し安全管理の徹底に努めた。

富士町関屋地区は公民館前に流れる川幅2m程のクリークで活動を行った。透明度が高く、メダカやゲンゴロウなどの水生生物が多く見られ、生き物採集に熱中する子どもも多かった。水深は60cm程で参加児童にとっては丁度良い深さであった。川と関屋公民館の間に道路があるので、車の往来に注意した。

今回のキャンプのメイン企画の一つであり、子どもたちが書いた感想文では川遊びの思い出がとてもよく印象に残っているようであった。



釣りに虫取りに昆虫採集！！



自然の川は寒いぞ！

・命の勉強

今回のキャンプのメイン企画の一つで、命の勉強を実施した。富士町では毎日、地域の方の協力で生きた鶏を捌き、調理までを行った。（鳥の捌きは刺激が強いため、見ることができない児童は公民館の中で待機してもらいました）鶏肉が食べれなくなるような衝撃を受けるか懸念されたが、実際は殆どが参加し、湯通しした鶏の羽をむしる作業の手伝いも行った。鶏を捌き、焼き物や揚げたりし、骨も出汁を取りスープを作った。感想文をみると、高学年の参加者は勉強になり良かったとの声も多かった。



よーし、釣るぞ～！



こうやって鳥は捌かれるのかー。

・しめ縄、凧揚げ作り

富士では地元の方の指導の元、藁をハンマーでたたきやわらかし、足に挟めてねじり合せていく。サポーターたちも初めての作業で子どもにも大人にも貴重な体験になった。低学年の子どもでも熱心に教えてもらい地元で褒められるほどの腕になった子供もいた。

凧揚げ作りは新聞紙等で手作りした。凧を揚げたことがない子どもや手作りをしたことのない子どもにとって、自分でおもちゃを作り、それで遊ぶという作業を地元の方と一緒にいった。

・勉強タイム

参加プログラムの最終日、午前中の一時間ほどを各自持参した宿題の勉強時間に充てた。サポーターとして参加している学生や社会人の方に勉強を見てもらい、学習指導を行った。

・山の創作体験

最終日、勉強タイムを終えた後、北山少年自然の家より協力の下、日替わりでどんぐりトトロと葉っぱのしおりづくりの作業を行った。電気ボンドやラミネーターも使用したため高熱部位もあり低学年は火傷をする恐れがあった為、サポーターが付き添いながら作業を行った。トトロの顔や配置、しおりのデコレーションを試行錯誤しながら完成させ、お土産として持ち帰らせた。



松ぼっくりを白く塗ってから～



きれいにゴシゴシ!!

・そうめん流し

最終日に昼食を兼ねて実施し、中鶴地区では7月25日からの参加組が、流し台・竹のお椀を地域の方と一緒に作り、期間中繰り返し使用できるようにした。そうめんの他にミニトマトやブルーベリーなど地元で収穫された食材を流し、大変好評であった。そうめん流しでは毎年恒例の先頭争いが勃発します。器から溢れんばかりのそうめんやおにぎりをおなか一杯食べた。使った器はもちろん自分たちで洗った。流しそうめんを初めてしたと言う子どもも多く感想文を見ても大好評であったことがわかる。

・清掃活動

清掃活動に関しては、期間中、自分達が使ったところということで、自ら進んで一生懸命清掃活動に臨んでいた。各班決められたエリアを掃除し、高学年が主体となって班員を引き連れて頑張っていた。

・どんぐり村・北山少年自然の家・森林学習展示館

各コースの最終日に公民館を出発した後、2時間程度のアクティビティを実施した。キャンプ最後のプログラムである。日差しが強いため水分補給や体調の変化に注意した。中鶴地区の場合はどんぐり村へ行き、昆虫展や子供プール、動物エリアで活動した。関屋地区の場合は北山少年自然の家へ行き、外でのウォークラリーを行った。雨天時は森林学習展示館に行き、松ぼっくり釣りや積み木などの創造アクティビティを行った。最終日には子ども同士の輪もしっかりとしたものとなっており、上級生が下級生の手を握り先導する場面も見られた。

6. **事業の反省と総括**

(1) 反省

① サポーターへの事前研修不足

事前研修内容は口頭での説明会のみであったため、スタッフとしての動き方や、子ども達との関わり方のイメージが浮かばず、当日の動き方に混乱する学生もいた。事前研修内容を充実させることでサポーターと協働で、より良いプログラムを作ることが出来たのではないかと思われる。説明会のみではなく懇親会なども行う事でサポーター同士のつながりを作り、当日の連携を取りやすくするのが好ましい。

③ 忘れ物の確認不足

前回の反省を生かし、公民館出発の際に忘れ物を全体の前で確認を行った。しかし、名前なしのものや大広間以外に置いてあるもののまで把握ができず忘れ物はやはり多かった。持ち物の名前の記入の徹底、忘れ物を確認する際に全体をサポーターに見てもらうことが望ましい。また、一時的ではあるが、前日からの宿泊組と当日新しく来た宿泊組の荷物が公民館内で一緒になることがあったため、混同しないように公民館の隅に分けるようにした。

④ 北山少年自然の家でのアクティビティについて

屋外でのウォークラリーを行った。水筒を持参させてはいたが途中でなくなる子どもも多かった。水筒補充は途中でできないため、サポーターが余分に持って行くなどの対策が必要だ。今回は6人1グループ程に分け、時間をずらして出発させた。少人数のおかげかグル

ープ内で話し合い進む道を決めていた。今回のコースは1時間半ほどで終わるコースであるが距離の長さや子どもの歩行スピード等を考えて3時間ほどとるべきだと感じた。

⑥雨天時の活動について

今回富士町の日程では天候に優れず雨が多く、屋外のアクティビティがあまりできなかった。富士町であったので講堂で遊ばせることは可能であったが、三瀬の時に同じ天候だと回らなくなったのではないかと思う。雨天時の際のアクティビティを事前に用意して当日を迎えるべきだと感じた。

(2) 総括

この事業は、地元住民のたくさんのご協力を得たからこそ、実施することが出来た。当事業の成果として第一に、大きな怪我もなく、参加者である子ども達がこのキャンプを通じて、精神面で大きな成長をしたことがあげられる。例えば食事面に関して、いつも以上におかわりをして食べる様子や、苦手な食べ物を周りの子ども達と切磋琢磨し、頑張っ て食べる様子が見受けられた。さらに、茶碗洗いなどの片付けも子ども達自身で行った。最初は洗い方に苦戦していたが、徐々に上手になり、最終日には低学年でも上手に洗えるようになった。人見知りであったり、一人で参加した子供も初日は緊張していたが、一緒に生活していく中で友達を作り、笑顔が見られるようになっていた。このように自主的に集団生活行動を、積極的に取組んだという、当事業の彼らに与えた影響は、大きいものであったといえる。また自然体験活動においても、普段の生活では、なかなか経験できない現代の子ども達にとって、新鮮な体験かつ自然の面白さや人と自然との共生を考える貴重な体験であったといえる。鶏の捌きなどを体験した子供達は残さず食べることの大切さ、食事の合掌の意味を理解したのではないかと感じた。また、日常のお世話をさせていただいた地域住民との交流は、子ども達にとって良い機会となったと感じる。

第二の成果として、この地域は過疎化・高齢化の集落であるが、子どもたちの声などが響くことで地域内では自然と集まる場所になり、年配者の人たちも自然と笑顔になっていた。当事業実施期間中、地域住民が「久しぶりに子ども達の歓声を聞いた」「久しぶりに地元が賑わった」など、子ども達の滞在を非常に喜んでいただいた。さらに、集落の自然資源を生かした流しそうめんの道具作りや魚釣りなどといった自然体験活動や、地元で取れた野菜を使った地産地消料理づくりなどを、子ども達に指導してもらった。このように地域住民にとっても、集落の良さを改めて見つめ直す機会となったと共に、子ども達と心の交流を図る良い機会になったといえる。

キャンプ終了後、参加者に感想文を書ってもらった。その中では、「楽しかった。来年もまた参加したい」「もっと長く泊まりたかった」「また来たい」という積極的な声が多くあがっていた。また「自然は凄いと思った」「初めて魚釣りをした」「こんなにキレイな星が見れて感動した」など自然体験への感動を綴る子供達も多く見られた。

以上のことから、当事業実施の目的であった、都市農村交流による地域活性化、そして学びある健全な青少年育成のための事業として、キャンプ事業の意義を感じる事が出来たといえる。この事業を一時的な事業とせず、今後も継続して行うことで、都市農村交流の意義を佐賀県内・福岡市内で高め、推進させてゆきたい。

最後に、当事業にご協力いただいた皆様に大変感謝を申し上げます。

アンケート結果

佐賀県 金山小学校 6年生 女の子

・命の授業ではいつもあたり前のように食べているものが動物の命を殺して食べているのだと知りました。物の一つ一つに感謝して食べようと思いました。来年は参加できませんが夏休みの思い出の1ページとして大切にします。

佐賀県 勸興小学校 5年生 男の子

・しめ縄を初めてしました。いろいろな人と話ができてよかったです。またやりたいと思った。また来たい。

佐賀県 神野小学校 3年生 女の子

・一人で来たので最初は不安だったがだんだん友達が増えてよかったです。

福岡県 七隈小学校 5年生 男の子

・鶏を捌いてから食べるのは初めてでドキドキしながら見ていました。いい体験をしました。

福岡県 朝日小学校 1年生 女の子

・おにぎりおいしかった。また来るのでまたつくってね！

福岡県 西新小学校 1年生 女の子

・川に入り、ガマガエルやオタマジャクシ・メダカなどいろいろな魚を取りました。最初は怖かったけど友達と一緒に取りました。また、行きたいです。

福岡県 百道浜小学校 5年生 女の子

・夜のお散歩では街灯が少なくとても暗かった。星空や蛍がきれいだった。笹の葉など初めて見ました。初めて自然とふれあえてよかった。